

I Tバブル崩壊後の米国経済の変貌 : 1990年代の回顧と2000年代の展望

篠崎, 彰彦
九州大学大学院経済学研究院

<http://hdl.handle.net/2324/9104>

出版情報 : SLRC プレゼンテーション, 2004-02-23
バージョン :
権利関係 :



ITバブル崩壊後の 米国経済の変貌

1990年代の回顧と
2000年代の展望

2004年2月23日
九州大学 篠崎彰彦

1


アウトライン

- ◆ 1990年代・・・情報通信技術革新の光と影
冷戦終結、湾岸戦争、政権交代（クリントン）、
経済再生、ITバブル
- <<= 2001年・・・ターニング・ポイント
IT不況、政権交代（ブッシュ）、9.11事件
- ◆ 2000年代・・・ ?????

2

1990年代の光と影

- ◆ 光・・・
経済再生
生産性上昇
- ◆ 影・・・
雇用なき回復
バブルの形成



3

IT問題と 1990年代の米国経済

- ◆ 時期的特徴の変化

<IT問題の関心の变化>

1980年代後半・・・停滞感の強まり
1990年代

序盤：雇用なき回復

↓

中盤：健全な拡大

↓

終盤：バブルの形成

~ 1980年代中盤（バラ色の未来論）
情報社会、ポスト工業化、第二の波・・・
1980年代後半～（懐疑的見解）

「ソロー・パラドックス」


「ニュー・エコノミー論」

4

ソロー・パラドックスとは？

- ◆ “We can see the computer age everywhere
but in the productivity statistics,”
New York Times, July 12, 1987

「コンピュータの時代ということをあらゆる
ところで目にする。ただし、生産性の統計
を別にすれば・・・。」



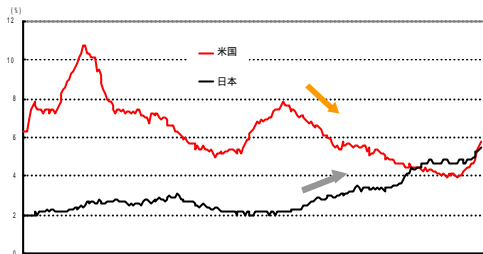
5

アメリカ経済の再生 (経済成長率)

GDP	1960s	1970s	1980s	1990s	(92-00)
JPN	10.4	5.2	3.8	1.7	(1.0)
USA	4.4	3.3	3.0	3.0	(3.6)

6

アメリカ経済の再生 (失業率)



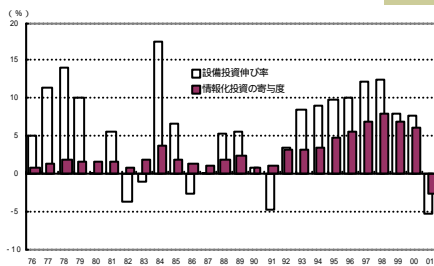
7

アメリカ経済の再生 (設備投資)

INV	1960s	1970s	1980s	1990s	(92-00)
JPN	19.1	4.0	7.8	0.8	(-0.5)
USA	7.2	5.4	3.3	6.9	(9.0)

8

情報化投資の増勢



9

設備投資の二面性

- ◆ 需要サイド
「現在」の「需要量」
「短期」の「景気動向」
- ◆ 供給サイド
「将来」の「供給力」
「長期」の「生産性」

過剰：投資負担

↑
意思決定の「要」

↓
過少：競争力低下

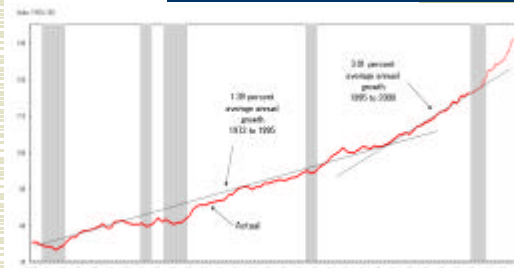
Copyright A. Shinozaki 10

ニュー・エコノミー論

- ◆ 97年夏の論争
グリーンズパンFRB議長、ウェーバー準教授、クルーグマン教授らの論争
- ◆ 二つの論点
現象面：生産性上昇の加速、景気循環の消滅、株価の上昇
要因面：情報化、グローバル化、規制緩和、労働市場の変化
- ◆ 論点の変化
ITと生産性(シロ・パラドックス) + 景気循環 + 株式市場

11

生産性上昇の加速は確か



12

ソロー・パラドックスの解消

- ◆ ‘We can see the computer age everywhere but in the productivity statistics,’ ‘We’d Better Watch Out,’ *New York Times*, July 12, 1987 「コンピュータの時代ということであらゆるところで目にするが、生産性の統計では目にしない」
- ◆ ‘You can now see computers in the productivity statistics,’ ‘Productivity Finally Shows the Impact of Computers,’ *New York Times*, March 12, 2000 「今や生産性の統計でもコンピュータ（の影響）を見れる」

13

2000年代の ニュー・エコノミー論

1990年代の
ニュー・エコノミー
(広義)

- 2000年代の
- ◆ ニュー・エコノミー (狭義)
...ITと生産性
 - ◆ 景気循環論
 - ◆ 株価の上昇



14

経済学にとって重要！

“Productivity isn’t everything,
but in the long run it is almost everything.”

「生産性は 全てというわけではない
しかし、長期的にみると、それは殆ど全てだ。」



— Paul Krugman (1990),
The Age of Diminished Expectations

15

小さい数字？ No, 大きな意味

- ◆ 「2倍豊かな社会」への道のり

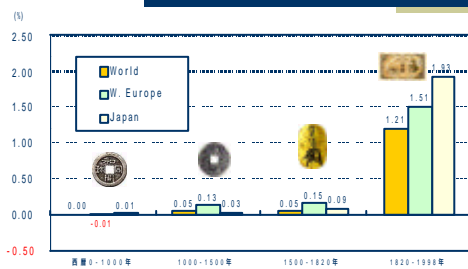
1.39%経済 50.2年 

3.01%経済 23.4年 

- ◆ 孫の世代か子供の世代か (1世代の違い！)

16

生産性上昇率の歴史

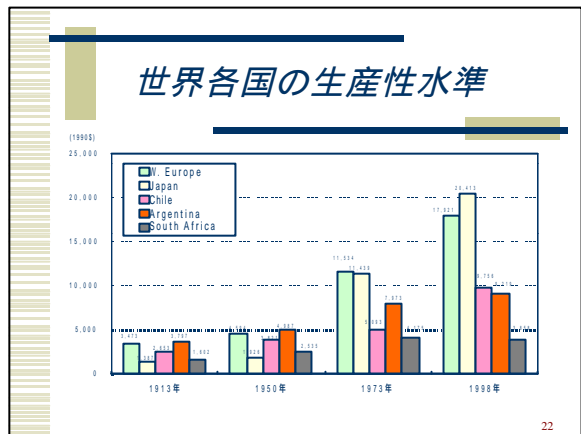
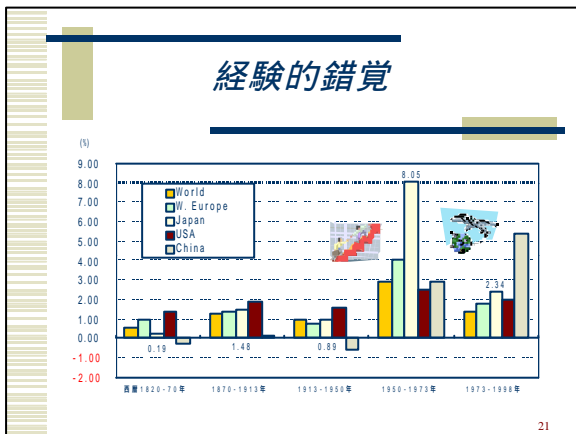
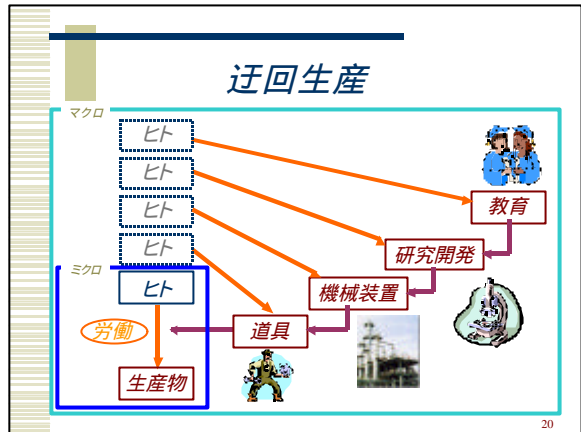
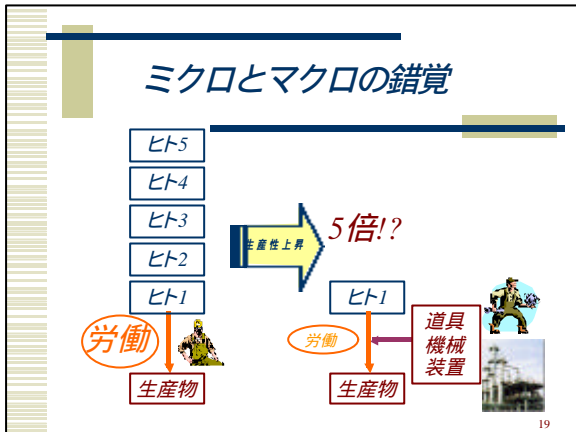


17

ふたつの錯覚

- ◆ ミクロとマクロの錯覚
迂回生産 (産業連関) の増大
- ◆ 経験的錯覚
戦後経済 (1950-73年) のスピード

18



各国の年代別生産性上昇率

年率%	1913-50	1950-73	1973-98
西 欧	0.76	4.08	1.78
日 本	0.89	8.05	2.34
チリ	0.99	1.26	2.63
アルゼンチン	0.74	2.06	0.58
南アフリカ	1.25	2.19	-0.32

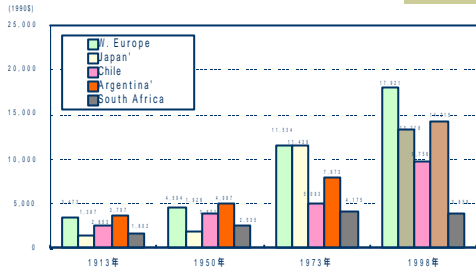
23

歴史に「もし・・・」があったら

年率%	1913-50	1950-73	1973-98
西 欧	0.76	4.08	1.78
日 本*	0.89	8.05	0.58
チリ	0.99	1.26	2.63
アルゼンチン*	0.74	2.06	2.34
南アフリカ	1.25	2.19	-0.32

24

結果は 違ってくる!



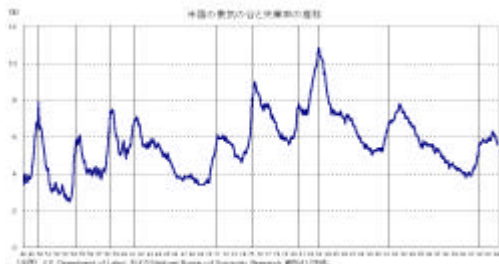
25

1990年代米国経済の影

- ◆ 雇用問題・・・1990年代序盤
雇用なき回復(Jobless Recovery)
- ◆ 経常赤字の拡大・・・1990年代終盤
過剰消費、バブルの形成

26

アメリカの失業率と景気回復



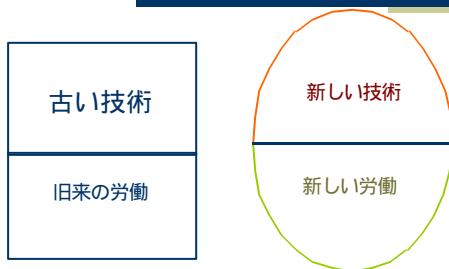
27

90年代前半の労働市場

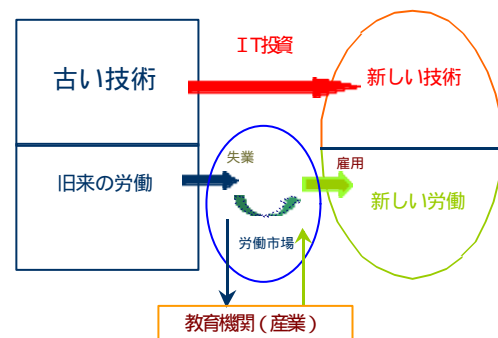
- ◆ *Temporary layoffs*(一時的)
- ◆ *Permanent job losses*(構造的)

28

企業や産業の「形」が変わる



Copyright A. Shinozaki 29



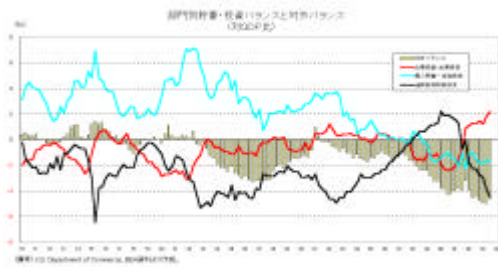
Copyright A. Shinozaki

経常赤字の急拡大



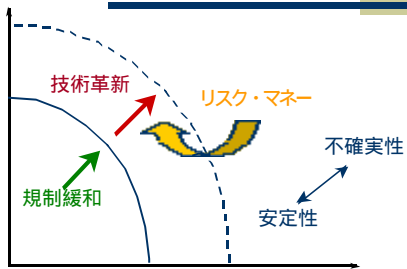
31

崩れるISバランス



32

生産可能曲線とリスク・マネー



Copyright A. Shinozaki
33

ハイテク企業への過剰期待



34

2000年代の米国経済

- ◆ ターニング・ポイントとしての2001年
 - (1) 政治: 政権交代
 - (2) 経済: 景気後退
 - (3) 社会: 9.11テロ事件
- ◆ 全速力 失速 + 船長交代 + 突発事件
= 「面舵いっぱい」
- ◆ 変化を読み解くキーワード
平和の配当、財政規律、資源配分

35

変化を読み解くキーワード

- ◆ 平和の配当
冷戦終結 テロとの戦い
- ◆ 財政規律
財政再建 財政赤字
- ◆ 資源配分
「民間」「ハイテク」「政府」「伝統産業」

36

一般教書演説 (2002年1月)

...Our first priority must always be the security of our nation, and that will be reflected in the budget I send to Congress. My budget supports three great goals for America: We will win this war; we'll protect our homeland; and we will revive our economy. ...

State of the Union Address, January 29, 2002

37

一般教書演説 (続き)

...Our men and women in uniform deserve the best weapons, the best equipment, the best training -- and they also deserve another pay raise. ...

State of the Union Address, January 29, 2002

38

資源配分の変化

対GDP比(%)	1980	1990	2000	80 90	90 00	00 04*
財政収支	-2.6	-3.8	2.4	-1.2	6.2	-6.9
歳入(+)	18.5	17.8	20.6	-0.8	2.8	-4.9
歳出(-)	-21.1	-21.6	-18.2	-0.4	3.4	-2.0
[注]国防(-)	[-4.8]	[-5.2]	[-3.0]	[-0.4]	[2.2]	[-0.9]
民間投資 [注]情報化	13.0 [2.5]	10.7 [3.1]	12.6 [4.8]	-2.3 [0.6]	1.8 [1.7]	*-2.5 [-0.6]

(備考) BEA資料, OMB資料, Economic Report of the President 2004をもとに試算。*2003年並と仮定。

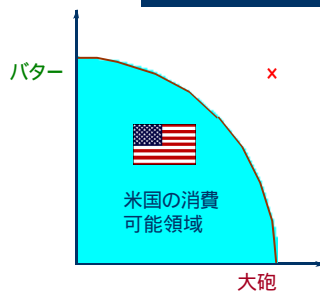
Copyright A. Shinozaki 39

財政規律の弛緩

- ◆ 1990年包括財政調整法 (1993, 1997)
裁量的支出 Spending Cap
義務的支出 Pay-as-you-go Rule
- ◆ 2002年9月で期限切れ
審議の山場は2002年4月15日
グリーンズパン議長も懸念(Nov.02, Feb.03)

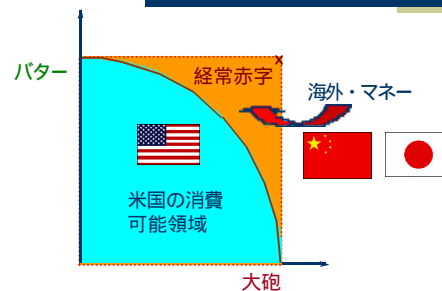
40

消費可能領域—大砲かバターか



Copyright A. Shinozaki 41

大砲もバターも...



Copyright A. Shinozaki 42

ふたりのBush大統領

- ◆ **Bush Sr. (1989 ~ 1992年)**
 湾岸戦争勝利 高支持率
 景気対策失敗 大統領選敗北
- ◆ **Bush Jr. (2001 ~ 2004年)**
 対イラク戦争
 戦後処理長期化・泥沼化 世論二分
 経済政策
 あつものに懲りて… 三つ子の赤字

43

年代別特徴

- ◆ **1980年代(レーガン)**
 財政赤字拡大
 民間設備投資停滞
 消費・住宅支出大
- ◆ **1990年代(クリントン)**
 財政赤字縮小 黒字
 民間設備投資増勢
 雇用なき回復 消費・住宅拡大
- ◆ **2000年代?(ブッシュJr.)**
 財政赤字拡大
 民間設備投資調整 持ち直し?
 消費・住宅支出旺盛

- ◆ 民間企業 設備投資
- ◆ 家計 消費・住宅
- ◆ 政府 財政支出

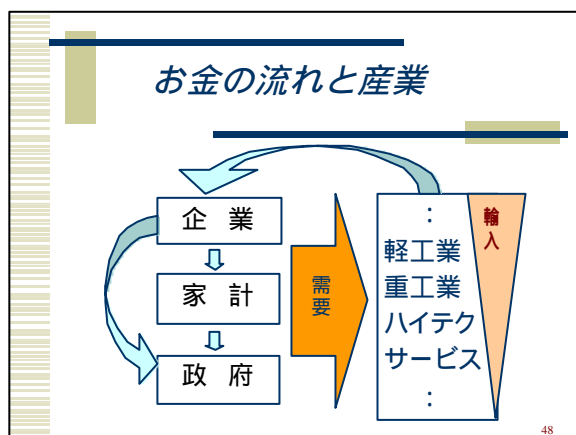
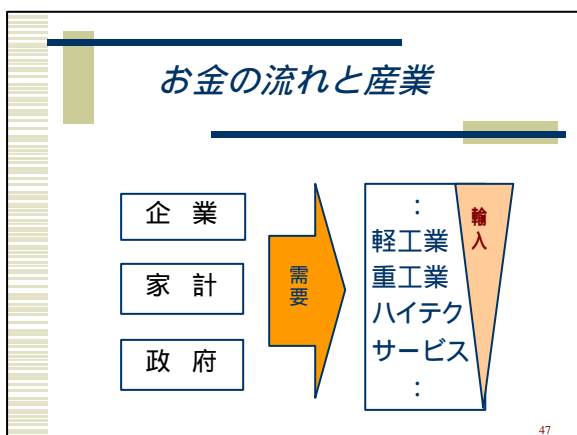
Copyright A. Shinozaki 44

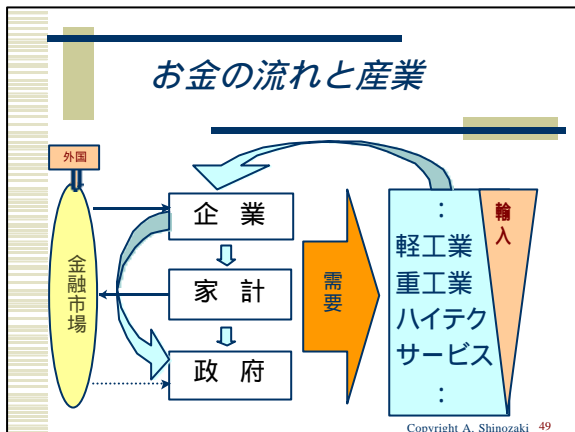


Second jobless recovery

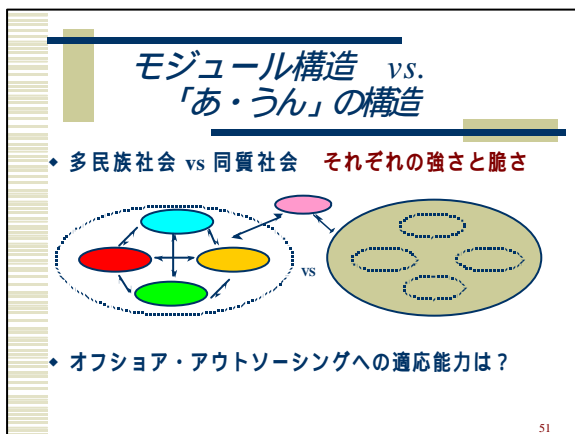
- ◆ お金が流れる産業のシフト
- ◆ ITのインパクト
 生産性の向上
 海外アウトソーシング

46





- ### オフショア・アウトソーシング サービス労働の海外委託
- ◆ Input (生産要素) [生産] Output (生産物)
 - ◆ これまで
「財」の生産活動: I-O の分離
サービスの活動: I-O が表裏一体
 - ◆ 「情報化」+ 「グローバル化」
サービス活動もI-Oの分離が可能
- 50



- ### 大統領選を前に政治問題化
- ◆ 州政府の調達契約に制限を設ける動き
 - ◆ マンキューCEA委員長の発言問題
 - ◆ グリーンスパン議長の援護射撃
- 52